

上智学院中長期計画「グランド・レイアウト3.0－2030に向けて－」用語集

カトリック・イエズス会に関連する用語、上智学院（各設置学校）に関する用語、その他のグランド・レイアウト3.0に関する用語についてまとめました。

(1)カトリック・イエズス会に関連する用語

No.	用語	解説
1	Cura Personalis	イエズス会教育の特徴として挙げられている、「良い羊飼い」として学生・生徒・教職員の一人ひとりを大切にすることを指す。
2	Educate Magis	イエズス会系学校の教師と教育者をつなぐ世界的オンラインコミュニティのことを指す。
3	ISLF	Ignatian Student Leadership Forumの略。 Ignatian Leadershipを養成するための教育プログラム。 ※参考 https://sophia-catholicjesuit.jp/mission/student_association/islf/
4	JSEC	Jesuit Secondary Education Committee：イエズス会中等教育推進委員会の略で、日本のイエズス会学校においてイエズス会教育を推進するための委員会。
5	MAGIS	イエズス会創立者の聖イグナチオ・デ・ロヨラが好んだ精神で、神のために、他者のために、「より一層」何ができるのかと考え、選ぶ姿勢のことを指す。 今回の中長期計画の策定においては、「常により良いものを目指す」「より良いものに向けて柔軟に変えていく」との期待を込めてこの用語を使用。
6	UAPs	2019年にアルトゥロ・ソーサ イエズス会総長から発表された「イエズス会使徒職全体の方向づけ2019-2029」(Universal Apostolic Preferences of the Society of Jesus, 2019-2029) の略で、今後10年間、イエズス会が携わっている使徒職のあらゆる分野において、留意すべき優先的な課題として示したもの。 ※参考 https://sophia-catholicjesuit.jp/topics/190625/
7	10の識別子	現代のイエズス会学校として認識されるために定められているidentifier（識別子） (1)カトリックであること (2)安全で健康的な環境をつくる (3)Global市民の育成 (4)被造物に対する配慮 (5)正義の促進 (6)全ての人アクセス出来る (7)文化相互性 (8)Globalネットワークに結ばれる (9)人間としての卓越性を追求する (10)生涯学び続ける
8	ラウダート・シ	教皇フランシスコが2015年に公表した環境方針に関する回勅（カトリック教会の公文書）。 「ともに暮らす家を大切に」の考えに基づき、地球を「家」ととらえ、カトリック教会としての地球環境に対する考えを表している。
9	4つのC (4C's)	イエズス会教育によって養われる資質として、コルベンバツハ元総長が示した指標 (Conscience, Compassion, Commitment, Competence)。

(2)上智学院（各設置学校）に関する用語

No.	用語	解説
1	IR	Institutional Researchの略。教学や経営に関する様々なデータの収集、管理、分析、共有を通して学内諸業務の意思決定を支援する機能。
2	SD	Staff Developmentの略。 大学教職員の能力開発による教育改善の取り組みのこと。
3	SFO	「Studies For Others」（他者のための学び）「平和構築・貧困の解決」を基調とした問題発見・解決型「総合的な学習・探究の時間」。中学・高校の6学年それぞれ成長段階に応じたテーマが設定され、学校で学ぶ知識や体験を活用して「平和構築」「貧困の解決」の妨げに気づき、その克服に関わる志と資質を育てる。
4	Sophian	通常は「上智の卒業生」として使っているが、今回の中長期計画では卒業生だけではなく、主に大学部門において、上智の精神を学んだ者として、学生・教職員・卒業生までを含んだ意図で使用している。
5	SSIC	Sophia Student Integration Commonsの略。 SSICは異なる文化や多様な価値観を持った学生同士が相互交流する"Student Integration Program"の拠点となる交流スペースで、2017年12月に四谷キャンパス11号館1階に開設。SSICの運用は学生センターが担当しており、様々なプログラムが提供されている。特に日本文化体験は留学生に人気があり、学外での日帰りツアーやフィールドトリップも実施している。
6	UEA	University Education Administratorの略。
7	URA	University Research Administratorの略。 大学等において、研究者とともに（専ら研究を行う職とは別の位置付けとして）研究活動の企画・マネジメント、研究成果の活用促進を行うことにより、研究者の研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化等を支える業務に従事する人材。
8	サービス・ラーニング	サービス（貢献活動）とラーニング（学習）をつなげ、ボランティア活動を学外で行い、その活動体験を通して学びを獲得することを目指す教育。
9	バイアウト制度	研究代表者等が研究プロジェクトに専念できる時間を拡充するため、当該研究プロジェクトの直接経費から、自らが担っている業務のうち研究以外の業務の代行にかかる経費の支出を行うもの。
10	基盤教育	大学部門の中長期計画における「基盤教育」とは、いわゆる教養教育、あるいは専門教育などの基盤となる教育のことではなく、絶えず急速に変化する社会で求められる学び続ける力を生涯の学びの「基盤」として身につけた「自律した学修者」を育てる教育を指す。 その実現のために、上智大学では基盤教育センターを設置し、専門・語学・全学共通科目が有機的に連携するカリキュラムを展開している。
11	認証評価	文部科学大臣の認証を受けた評価機関（認証評価機関）が、大学、短期大学、高等専門学校および専門職大学院の教育研究活動等の状況について、各認証評価機関が定める評価基準に基づき行う評価制度のこと。

(3)その他

No.	用語	解説
1	DEI&B	Diversity, Equity, Inclusion and Belongingの略。 D&I（多様性と包摂性）にEquity（公平性）に帰属意識を表すBelongingが加わったコンセプトである。なお、Belongingとは、構成員がありのままの自分で周囲に受け入れられ、所属組織に居場所があると感じられる状態を表す考え方。
2	GX	グリーントランスフォーメーションの略。 2050年カーボンニュートラルや、2030年の国としての温室効果ガス排出削減目標の達成に向けた取り組みを経済の成長の機会と捉え、排出削減と産業競争力の向上の実現に向けた、経済社会システム全体の変革のことを指す。
3	SX	サステナビリティトランスフォーメーションの略。 不確実性が高まる環境下で、企業が『持続可能性』を重視し、企業の稼ぐ力とESG（環境・社会・ガバナンス）の両立を図り、経営の在り方や投資家との対話の在り方を変革するための戦略指針のことを指す。
4	アーカイブス史料	歴史的に重要な資料を永久的に保存し、公開する施設、あるいはそのような歴史的記録資料そのもの。
5	ウーマンエンパワーメント	女性が個人としても、社会集団としても意思決定過程に参画し、自律的な力をつけて能力を最大限発揮すること。
6	ウェルビーイング	心身が健康で、社会的にも満たされた状態のこと。構成員が心身ともに健康であり続けることが、組織に良い影響を与えると考えられている。
7	エンゲージメント	一般的に、「エンゲージメントの向上」として使われる際には「企業・団体等に対する愛着や貢献の意志をより深めること」の意味を指す。一方で、部門共通の3つの方針における「選ばれ続ける学校としてのエンゲージメント」とは、先述の意味に加えて、「社会変化や期待への積極的対応と発信・対話・連携の強化」の意味も加えている。
8	グローカル	グローカル（glocal）とは、「global（地球規模の）」と「local（地域的な）」を合わせた造語で、地域性を考慮しながら地球規模の視点で考え、行動することを表した言葉のこと。
9	データドリブンマネジメント	経験や勘に頼る判断とは対照的に、データの分析結果に基づいて迅速かつ合理的な意思決定を可能とする経営手法。
10	ユニバーサルデザイン	文化や言語、国籍、年齢、性別の差異、障害や能力に関わらず、誰もが利用しやすい、施設、製品、情報のデザイン。
11	レピュテーションマネジメント	「レピュテーション（reputation、評判・世評）」を「マネジメント（management、管理）」することであり、企業・団体等が自身の評判を高めたり、風評被害や悪い評価への対策や対応をしたりすることを指す。